

1 自己評価及び外部評価結果(2丁目ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに(二丁目ユニット)		
所在地	岩手県花巻市湯口字松原55番地23		
自己評価作成日	平成25年8月28日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0370500779-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田園に囲まれ自然があふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており24時間連絡が取れ、バックアップ体制が取れている。2ユニットになり、連携も取りやすく、行事や活動を行っている。季節ごとのバスハイクや母体特養でのバイキング食や行事への参加で生活の楽しみや生活空間の拡大を図っている。利用者の重度化に伴い利用者間のいたわり合いや助け合いなどを通して利用者がその人らしく安心して暮らせる場所としての雰囲気を作り努めている。花壇の手入れやプランターでの野菜作りで収穫を楽しみにしている。利用者は、食事の片づけ等に積極的に参加している。地域との交流は、子供会、ボランティア、防災訓練への地域住民の参加協力を得ている。看取りの利用者がおり、職員は看取りについて研修を行い、訪問診療、訪問看護と連携して本人が穏やかに過ごせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営理念「住み慣れた地域で尊厳ある人生を、その人らしく豊かに安心して暮らせる場所」と、それを具体化した基本方針を一丁目・二丁目の全職員が毎朝唱和し徹底して把握し共有され、日々の業務に当たっている。穏やかで温かい雰囲気がいっぱいである。・母体の特別養護老人ホームを背に一丁目・二丁目の2ユニット体制のグループホームで、全ての面でバックアップ体制が取られており、互いに相乗効果があり、安心感が得られる。ホームの環境も四季折々の景色が眺められる恵まれた環境下にある。・地域との交流も活発で多彩なボランティアグループ(おやつ・野菜・手工芸・みこし)などが来訪し更なる活気の源になっている。・事務室の職員の机上には日常使われる連絡先の一覧表や基本方針などが添付され、容易に役立てられるように準備されている。・両ユニットに通じる広く長い廊下の横面に歩く目標距離(10m・20m・30m)が記され、自ら進んで屋内ウォーキングを楽しめるように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者は地元の方が多いので「住み慣れた地域で安心して暮らせる場所」を理念に掲げ、日々念頭におきケアしている。玄関やリビングに理念をはり出し、朝のミーティングで唱和し共有を図っている。	職員全員で話し合って決めた理念と、それを具体化した基本方針を毎朝唱和し、互いに意識付けをしているだけに、管理者と職員一人ひとりが、完全に内容を把握し共有され、見事に日々のケアに反映されている。年度初めに、職員間で内容を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区子供会との交流や老人クラブ、ボランティアによる工芸、お菓子づくりを通して地域の方々と交流している。	さくらの会・どんとはれ会・花と緑の会・子供会などによる、多彩なボランティア(おやつ作り・野菜作り・手工芸・みこしの来訪)等により賑やかに交流されている。自治会には加入していないが、散歩・買い物等では、日常、地域の方々と挨拶・会話を楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に広報「共に」を配布したり、施設や認知症についての問い合わせに対して説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに会議を開催し、現状報告し、意見を頂いている。その後、議事録を基に職員で話し合い実践につなげている。	利用者の生活状況・事業所の取り組み内容・家族からの市に対する質問・防災など多角的に約1時間程度話し合われてるが、事業所としては、今後、その都度テーマを設けてさらに効果的な会議にしたいと検討している。その中で防災の件などでは、消防・警察等への声掛けも考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所から参加していただき、現状報告をしている。介護等に必要な意見を頂きサービスの質の向上につなげている。生活保護の方がいるので、状態変化のあった都度報告し、指示を頂いている。	日頃、市の担当職員に広報や電話などで事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、連携を図っている。また、市の担当職員や包括支援センター職員が推進会議に出席され現状を見てもらい協力関係を築いている。地震や台風の際にも安否確認の連絡を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを行うため、研修に参加し事例を通して拘束しないケアを実践している。利用者の安全を確認した上で、利用者の意思を抑制しないよう環境を整えている。	時折家庭の事を思い出して外に出たがる利用者があるが、その時は家族に連絡し、本人に直接電話して頂いたり、また家族から足を運んでいただきお話し、安心することもある。外部研修で学んだことを内部研修で全職員に研修伝達し、拘束(言葉の拘束も含む)についての話し合いは徹底して行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を開き、日ごろの業務の中から、虐待につながらないように困難事例等話し合い防止に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(二丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会で得た知識を内部研修会で伝達し、職員全員が活用出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書を提示し、十分な説明を行っている。家族会や面会時に、意見を聞き説明する機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置している。面会時に意見や苦情を出しやすい雰囲気作りをしている。いただいた意見はミーティング等で話し合い業務に反映させている。	母の日に家族会を行い、その機会にアンケートを年一回記入して頂き、意見・要望を頂いている。また、面会に来られた際にも、気楽な気持ちで述べられるような配慮もしている。その結果はミーティング時に話し合い支援に反映させている。例としては、居室の入り口に迷わない様に各利用者の写真を掲示)などがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等、職員から意見を出しやすい場を設けている。	ミーティングや職員会議時に意見・要望を出し、それを話し合い改善につなげることが多々ある。例としては掃除の時間帯や年間計画の作成や菜園作付要領やテーブルの配置等があり、また日頃の業務においても、その都度申し送り帳等に記入し、些細なことでも全員で共有し、ケアの向上に繋げている。	確実なケア業務を共有し維持向上させるために様々な日誌・ノート(業務日誌・職員連絡・申し送り・家族連絡・ケース記録・水分排泄記録)などを毎日記録されているが、内容が重複していることが考えられる。機会を見て職員・管理者全員で検討してみたいことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士等資格取得に向け、支援している。外部研修は就業年数を勘案し参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、内部研修会は年間計画をたて、担当者を決め取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症協会、岩手県グループホーム協会、花北ブロックグループホーム定例会に参加し、いろいろな研修をうけている。施設交換研修では、他施設の良いところを知り、自施設のケアに反映させている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(二丁目ユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設を見学して頂いたり、家族から以前の様子を聞き、入所後は本人の気持ちを受け止める様に、本人の声に耳を傾けている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問にて家族の気持ちを受けとめ、困っていた点や介護状況を知り、要望を傾聴している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か見極め、サービスの場に馴染み安心し納得して利用できるよう支援の工夫をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にすることで、個性や力を発揮できるように支援している。本人の望む暮らし方を知り、ともに支えあっていく姿勢を持ち続けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のお知らせや面会を勧め、一緒に過ごす時間を大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力でかかりつけ医への通院やなじみの理美容院、自宅への外出支援を行っている。	時には母体の特養利用者に知人・夫がいて時折訪ねてきてウッドデッキで会話を楽しまれてる方もいる。また毎月のように家族が自宅に連れていく機会も作っている。普段の会話で、家族の名前や地名を話題にして賑やかに会話を楽しまれてる方もいる。急に里心が出て帰りがたがる方もいるが、自宅に電話されたりして安心されることもある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のコミュニケーションの話題提供やレクリエーションを一緒に行い、きっかけ作りをしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(二丁目ユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移動した方へ面会したり、行事の際あった時声を掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、表情から思いを汲み取るよう努めている。危険のないよう十分注意し、本人の希望に沿った生活が出来る様に支援している。	主として利用者の担当職員が、本人から希望を聞いたり、表情や言葉から真意を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。本人にとって、誰と、どのように暮らすことが一番良いのか、家族を交え、検討することもある。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が今まで暮らしてきた生活歴の中から力を発揮できるよう、職員で話し合い周知するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や介護日誌、連絡ノートで職員全員が全体的に把握している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討により、定期的に職員で話し合い、新たなプランを作っている。家族に説明し要望を頂き、ケアプランに反映させている。	本人や家族には、日頃のかかわりの中で思い・意向を聞き、全職員で定期的にモニタリングを行いプランを作成している。特に変化がなければ見直しは半年に一度行うが、臨機応変に対応している。家族には毎月連絡し、意見要望を頂き、次回のプランに反映させている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、連絡ノートで情報共有し、職員同士連携をとり、支援の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて通院介助や物品購入代行を行い、利用者の支えになっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(二丁目ユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地区子供会との交流、防災訓練への地元の方々の参加を頂いている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が入所前からのかかりつけ医に継続的に通院する際の情報提供や母体特養の嘱託医による回診を受けている。訪問診療、訪問看護の受け入れや状態変化の際の連絡を行っている。	利用者全員かかりつけ医を持ち、一覧票を用意し、常に利用者の状況を報告し連携を図っている。週一回の協力医による往診はその都度状態の良くない利用者のみ診ていただいている。通院は家族同行となっているが、不可能のときは職員が代行している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の特養の医務室と連携し、看護師に24時間体制で必要な相談や指示を頂いている。訪問診療、訪問看護来荘時には、状態報告や相談を行い、変化する対応内容について指示を頂き、支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族と相談しながら、医療機関に対して本人に関する情報の提供を行っている。退院時は、スムーズに施設の生活に移れるように状態確認、注意点等の対応方法を話し合っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が重度化してきた場合、母体の特養への入所を勧めたり、終末期の方の対応を研修し職員で支援内容の確認をしている。また、変更があった場合、ノート等で情報共有している。	入居時に本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり安心して納得した最後を迎えられるように意思確認をしながら取り組んでいる。現在1丁目利用者の中で1人対象者がおり、訪問医療を受けている。一般に重度化の際は特養への希望者が多い。従って担当職員との連携をとり、情報の共有に努めている。当ホームでは入浴が無理と判断したらグループホームでの生活は難しいと考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿った研修と実技による技術の確認、習得を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に沿って防災訓練を行い、特養職員や地域の方にも連絡し駆けつけていただけるよう取り組んでいる。食品の備蓄も準備している。	消防団や母体特養職員や地域住民(4名)の協力で行う訓練と事業所単独訓練を合わせて年5回実施している。119番通報により、地域民(4名)まで連絡可能。大地震時への対応で落下物や倒壊しやすい家具類の点検も行う。また一時避難場所や地域応援隊の役割も話し合い検討している。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(二丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自室に入るときは声を掛けてから等、利用者に対して羞恥心に配慮した対応が出来るか、日ごろ使っている言葉遣いに問題がないか、職員間で話し合い自覚を促している。	援助が必要なきも、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自然に自己決定しやすい言葉かけをする様に努めている。毎朝唱和している理念の「尊厳」を全職員心に刻み、ホーム内(両ユニットとも)穏やかでほのぼのとした明るい雰囲気を漂わせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人に合わせた声かけで意思表示出来る様に働きかけている。バイキング食や誕生日の食事等好きな物を自己選択出来る様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重しソファで休まれる方や自室でテレビを見る方等ゆったりと過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を頂き、本人のなじみの理美容院へ行ったり、自宅へ帰ったりしている。季節に合わせて本人の希望に合った服装を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの献立表を張り出している。季節の野菜を育てて食べて頂いている。苦手な食べ物は代替えや調理方法を変えて対応している。咀嚼状況に合わせて、刻み食を提供している。	お腹が空かなくて少し残食された利用者にも、「夕飯はおいしく食べようね」と優しい笑顔で対応された姿が印象的である。前庭にあるプランターでつくった野菜(トマト・茄子・きゅうり)等を調理し、食の楽しみに繋げている。両ユニットとも隣接の特養と同じメニューで、時々ウッドデッキで野外の食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録と、水分摂取量チェック表で摂取量の把握を行い、必要量を摂取して頂くよう働きかけている。水分にむせる方はゼリー等にして摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ、義歯洗浄、舌ブラッシング介助を行い口腔内の状態もチェックしている。夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(二丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレ誘導で排泄を促している。トイレ誘導により失禁が減りリハビリパンツから布パンツ使用になった方もいる。	トイレでの排泄を大切に、排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも、さりげない誘導支援をしている。全職員、利用者一人一人のサインを把握し習慣やパターンに応じた支援をされている。デイサービスでトイレ使用ができなかった利用者が見事に当ホームでトイレ排泄可能になった経緯がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便チェックを行い、個々の状態に合わせて水分摂取やゼリーを勧めている。また、一緒に歩行運動したり、体操して排便を促している。医師との相談で下剤調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴なので入浴への羞恥心等を考慮してタイミングや入浴日を変更しゆっくり入浴を楽しめるように、支援している。また安全面を考え二人体制で入浴支援している。	入浴時間は行事のない日は午後の2～3時頃で1日おきの入浴となっている。バイタルチェックは毎日10時ごろ行う。職員が一方的に決めず、利用者の希望を確認して、時間をズラしたりして入っている。職員はくつろいだ雰囲気をつくり楽しい入浴タイムにすることを心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態を見て、自室で休んで頂いたり、歩行訓練や散歩の活動で夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、服薬の際も最後まで確認して誤薬を防いでいる。飲み込みの悪い人にはゼリーで飲み込み易くしている。薬の内容変更はノートを活用し職員同士で情報共有し、様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器ふきや洗濯たたみなど個々の出来ることを役割として自信を持っていただいている。歌の好きな方が多いので一緒に歌ったりしている。花の好きな人は、一緒に外に出て花を摘んできて飾ったりしている。コーヒー等嗜好品も家族に依頼して用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように、バスハイクを計画したり、本人の外出希望を家族に伝え、外出を勧めている。外出時は知り合いの方に会い懐かしい話をされることもある。特養の行事で知人に会う事も多い。	ホームの内外から眺められる恵まれた四季折々の景色を楽しみながら敷地の散歩や両ユニット前面にある花壇の草取りやプランターの手入れなどを行っている。月一回のバスハイクや隣接の特養での演芸会参加などには家族にも参加されるように呼びかけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(二丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と話し合い、事務所で預かり、本人に時々確認して頂き安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、電話を掛けたいと希望があるときは、こちらから掛ける様にしている。手紙は代筆や届いた手紙を本人に読み上げしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけ(七夕、クリスマス)等と一緒にいたり、ボランティアと一緒に作った工芸作品を飾りくつろげる空間を作っている。一人一人の身体状態に合わせ食堂の席を確保している。	採光の良い居間の外側には両ユニット(1丁目・2丁目)ともウッドデッキを設け、その周りには工夫された花壇やプランターがあり四季折々の風景が楽しめる。両ユニットに通じる明るく広い廊下の横面に(10m・20m・30m)のメーター印があり、思わず屋内ウオーキングがしたくなる。それぞれ畳の小上がりを設け(片方は移動式)うまく活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳で新聞を読んだり、休んだりできる環境を作っている。天気の良い日はウッドデッキで日光浴を楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き、本人のなじみの物を用意したり、自分の湯呑、箸を使用している。家からカレンダーを持ってきていただき自室に飾っている。写真や誕生日カードも飾ってなじみの空間を作っている。	広い廊下の両側に18の居室があり、そのうち4室にはトイレが付いてある。入り口には部屋を間違えない様に利用者の顔写真が貼ってあり、居室の中は約5畳ほどの広く明るいフローリングになっており、すっきりして、非常に清潔感にあふれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや自室の名札を大きめに作り、見やすい高さで掲示している。		